

高校時代にこそ大学の一般教養の基礎となる全科目の勉強を
—高校用参考書の最大活用を—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q 1 : 大学入試だけではなく、大学教育の内容も大分変わるようですね。

A : (林明夫：以下省略)

- (1) はい。安倍首相直轄で下村博文 文部科学大臣が担当する教育再生会議では、政治の停滞のために世界の動きから 20 年間の遅れを取った教育改革を一気に進め、日本の国際競争力を強めてデフレ経済からの脱却を図れるだけのグローバル人材の育成を目指しているようです。
- (2) 英語教育だけでも、大学入試や国家公務員試験の英語の試験を TOEFL で代用したり、高校だけではなく中学校でも英語の授業を英語で行うようにしたり、小学校 5・6 年生から正規の英語の授業をスタートしたりするなど、世界では当たり前のように行われてきたことを、日本でも行おうとしています。
- (3) 大学入試センター試験を廃し、高校卒業の前後に学力到達度テストを何度か受験させ、その最高点を希望大学に提出させて大学入試の一環とするという有力な案も出ています。大学教育の内容も変わり、一般教養が大幅に削減され、専門科目や職業訓練的な内容を大幅に入れようとしています。

Q 2 : では、一般教養の勉強はどこですればよいのでしょうか。

- A : (1) 例えば、北欧のフィンランドでは大学はすべて 3 年制で、従来型の大学の専門科目や職業に関する専門科目が中心です。すべてが大学院の修士課程の内容と連動し、3 年制の大学で学ぶ大半の人が大学院の修士課程でも学ぶことを前提に大学・大学院の 5 年間一貫教育が考えられています。
- (2) フィンランドでは、日本の大学で学ぶような一般教養科目は高校時代に学ぶようです。フィンランドの高校はすべて単位制高校で、早い人は 2 年、ゆっくりと学ぶ人は 5 年、つまり 2 ～ 5 年かけて自分のペースで高校での学習をするようです。人によっては 4 ～ 5 年かけて職業高校と普通科高校の 2 つを卒業する人もいます。単位が取れないと次の学期には進めない・卒業もできないのがフィンランドの高校です。
- (3) フィンランドまでとはいかなくても、日本でも大学から一般教養の内容が少なくなれば、高校で学ばざるを得ない状況になりそうです。
- (4) 大学の一般教養科目の勉強は高校までの各科目の基礎的な知識が前提となっはじめて成り立ちますが、日本では、高校程度の基礎学力が不足している高校生があまりにも多いと思われます。そこで、現在高校に通っている高校生は、自分が受験する大学の入試にその科目

が出題されるかどうかに関係なく、高校で履修すべきすべての科目をきちんと学習すべきだと考えます。その上で、大学で学ぶべき一般教養の内容をたとえその一部でもよいから「放送大学」や近くの大学などの「イクステンション(大学開放講座)やコミュニティ・カレッジ」などで学習することをお勧めします。

Q 3 : 中学生はどうしたらよいのでしょうか。

A : (1)現在中学校に通っている中学生でやる気・元気のある人は、たとえ 1 科目でもよいですから、書店で入手可能な教材を用いて高校で学ぶ内容を中学生のうちにどんどん学習すべきと考えます。

具体的には、高校の社会科は次の方法で学習することをお勧めします。山川出版社から「もういちど読む山川日本史」「もういちど読む山川日本近代史」「もういちど読む山川世界史」「もういちど読む山川地理」「もういちど読む山川政治経済」「もういちど読む山川倫理」と、高校の教科書よりも読みやすいものが 6 冊出版されています。「地図帳」や日本史・世界史ならば「図録」、政治経済・倫理ならば「用語集」(すべて山川出版社)を手元に置き、絶えず調べながら、学校で先生の授業をお聞きするようなゆっくりさでそれら 6 冊を 4 ~ 5 回じっくりと通読なさることをお勧めします。

(2)国語科の「古文」は、小西甚一先生の「古文の読解」(ちくま学芸文庫)をテキストにして、同じく小西先生の「基本古語辞典」(大修館書房)で大切な語句を一語一語調べながら古文の世界を知る。

「漢文」は、加地伸行先生の「漢文法基礎」(講談社学術文庫)をノートを取りながら読む。同じ加地先生の「論語」(講談社学術文庫)も一緒に読んでしまうことをお勧めします。

「現代国語」は、「名指導書で読む 筑摩書房なつかしの国語教科書」(ちくま学芸文庫)がお勧め。指導書付きの現代国語の教科書で、誰でも入手可能です。実に親切でていねいです。

(3)「英語」は、桐原書店の「総合英語フォレスト」がお勧め。「音トレ(CD 付)」と「解いてトレ」という副教材の併用を。特に、英検 3 級に合格した中学生にこの 3 冊は超お勧めです。この 3 冊に加えて、自分の実力に合ったロングマン社の「英英辞典」で徹底的に意味調べを。英検 2 級合格までこれで O.K.、十分です。

(4)「理科」と「数学」は、中学校・高校の学習内容を分野別にわかりやすく解説した講談社の「ブルー・ボックス」などの新書本、ちくま書房の「ちくま学芸文庫」などの文庫本が役に立ちます。少し大きめの書店や図書館で自分に合った本をじっくりと探し、1 冊決めたら、ノートを取りながら 5 ~ 6 回ゆっくりと読んでください。長岡亮介著「長岡先生の授業が聞ける高校数学の教科書(CD 付)」(旺文社)もお勧めです。

(5)東京 お茶の水の「三省堂書店」の 6F では、小学校から高校までの現在学校で使われている数多くの教科書が販売されていて、誰でも買えます。上級学校や上級学年の教科書を購入したい人にはお勧めです。

Q 4 : 日本の高校教育で、今、最も求められている科目は何だとお考えですか。

A : たくさんあります。例えば「理科」でしたら、これほど大地震や地球環境の問題が叫ばれているのに、高校生には「地学」の勉強が欠けています。「社会」でしたら、政治や経済、文化の基礎である「倫理」の勉強が欠けています。「地学」と「倫理」はぜひ学習しましょう。また、フランスでは高校 3 年生の最重要教科である「哲学」の授業が、日本の高校では全くといってよいほど行われていません。これに加えて、大学で哲学を学ぶ学生は激減。日本はフランスの教育に学び、哲学の教育を重視すべきと私は考えます。

Q 5 : 最後に一言どうぞ。

A : (1) まとめていうと、これから高校に進学する元気な中学生、また、現役の高校生は、まずは高校レベルの内容をしっかりとしたテキストを選んで「理解」し、それらの「定着」を図ることです。高校生は学校の教科書、中学生は書店で入手可能なもので高校の内容の学習が済んだ科目は、自分の関心のある分野から「放送大学」や「大学開放講座」を活用して大学レベルの一般教養を自分の力で焦ることなく身に付ける。この夏休みはその第一歩を踏み出す絶好の機会です。

(2) 大学入試はすべて秋に移行し、高校の内容の学力到達度テストは高校卒業の前後に実施すべきと私は考えます。高校 3 年間は高校レベルの内容をひたすら学習し、余裕のある科目は大学の一般教養科目を学習すべきと私は考えます。

皆さんはどのようにお考えですか。

— 2013 年 6 月 10 日記 —